

第 53 回全国高等学校将棋選手権大会愛知県大会 報告

5月3日(水)・4日(木)の2日間に亘って、今年も名古屋高校を舞台に“将棋の甲子園”を目指した標記大会が開催された。この大会は愛知県高校将棋連盟、愛知県高文連、日本将棋連盟東海普及連合会・愛知県支部連合会、中日新聞社の共催で、愛知県、愛知県教育委員会、名古屋市、名古屋市教育委員会の後援を受けている。

大会結果を簡単にお伝えする。また、大会の様様と結果が、5月5日の中日新聞朝刊に写真つきで掲載された。そちらもご覧いただきたい。

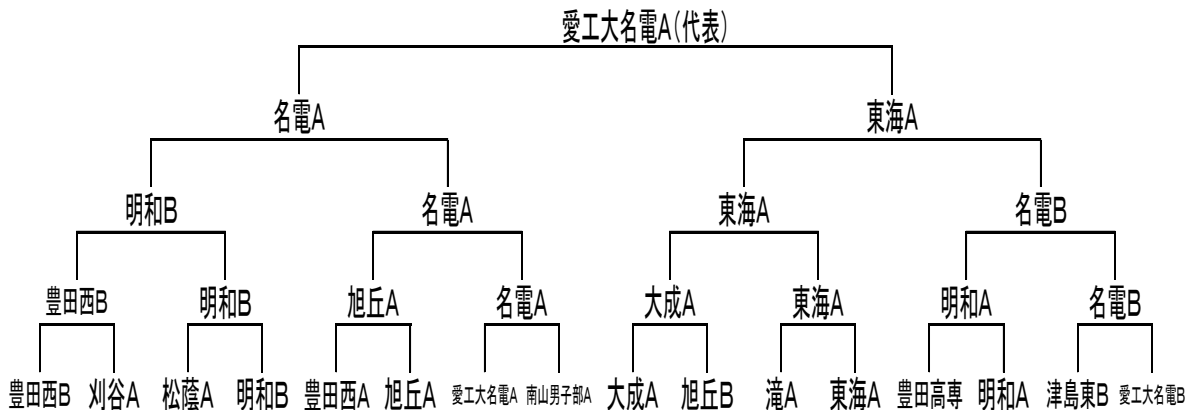
★ 団体戦 5月3日

初日は団体戦(3人1チーム)で、1校から何チームでも出場できる。男子は29校から54チームが、女子は2校から3チームが参加した。最も多くのチームを出したのは明和高校(A～Eの5チーム)で、普段の活動の充実と層の厚さが想像される。

男子団体は4チーム(または3チーム)による予選リーグを行い、各組1位の14チームと、2位チームのうち成績上位の2チームの計16チームが決勝トーナメントに進出した。午後のトーナメント初戦において、昨年まで本大会2連覇中の南山男子部と東海三県大会2連覇中の愛工大名電Aが対戦。これを制した名電Aがその後も勝ち進み、決勝では過去最多の優勝を誇る東海Aを破って、4年ぶりの優勝を果たした。名電はBチームも4強入りしており、今大会の中心であった。

女子団体は3チームによる総当たり戦で、最終3回戦で南山女子部A・Bの決戦が行われ、これに勝った南山女子部Aチームが優勝となった。

～男子団体戦決勝トーナメント～



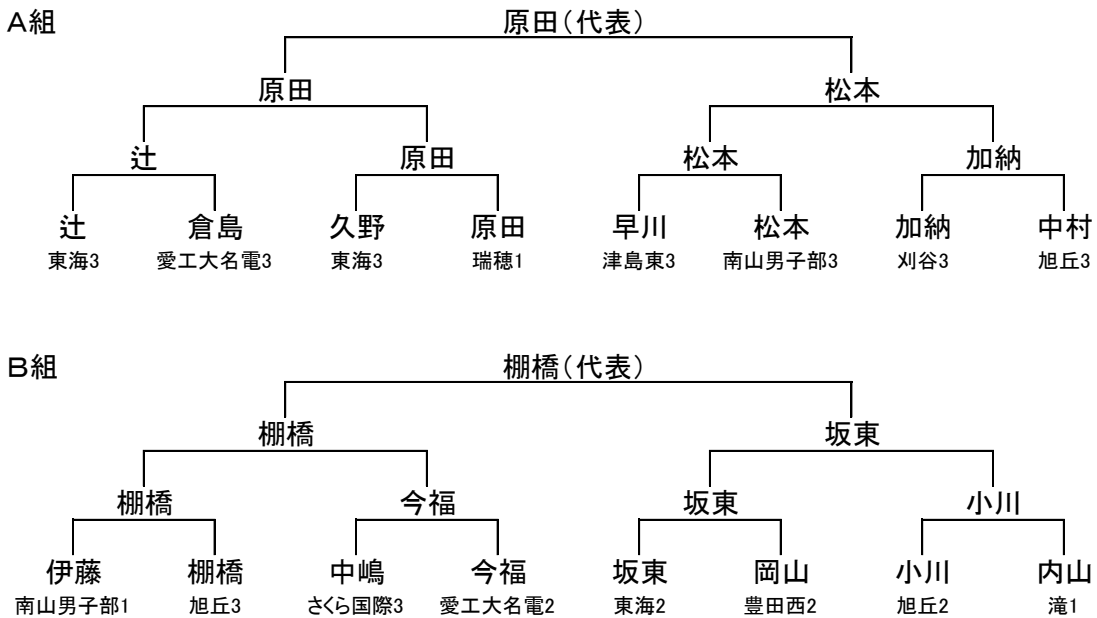
★ 個人戦 5月4日

4日(木)には個人戦が行われた。前日の団体戦で優勝した選手を除き、男子は40校217名が、女子は7校11名がそれぞれ上位2名の代表枠を目指して対局した。

男子は初めからトーナメント戦である。午前中に優勝候補が敗れる事態もあり、混戦模様映った。ベスト16で再抽選し、ABの2組に分かれ、それぞれのトーナメントの優勝者が県代表となる。A組決勝は原田知輝君(愛知みずほ大瑞穂1年)と松本雅紀君(南山男子部3年)の対戦となった。相振り飛車の激しい闘いとなり、終盤に入って原田君がリードしていたが、松本君に好手が出て形勢は混沌。しかし直後に原田君が詰みを発見して終局した。原田君は高校大会デビュー戦で栄冠をつかんだ。B組決勝は棚橋直紀君(旭丘3年)と坂東拓真君(東海2年)の横歩取り模様で、難しい将棋だったが、終盤では坂東君が上手く寄せの網を絞っていく。しかし30秒の秒読みに入って最終盤で逆転し、棚橋君が全国大会行きの切符を手にする事になった。

女子はスイス式トーナメント4対局を行った。昨年度の全国大会で準優勝を果たした木村野乃花さん(津島2年)が、貫録の4戦全勝で本大会2連覇を達成した。また、最終戦で1敗どうしの後藤安寿さん(南養護2年)と水野智花さん(南山女子部2年)が当たり、中盤でリードした水野さんが、新聞社の取材の方のシャッター音だけが響く緊迫したムードの中、落ち着いて寄せきった。これによって全勝者に敗れた1敗者が水野さんだけとなり、水野さんが準優勝となった。

～男子個人戦トーナメント(ベスト16以降)～



今年の全国大会は、宮城県白石市で8月3日、4日に開催される。難関を抜けて県代表となった愛工大名電、南山女子部の各校、原田君、棚橋君、木村さん、水野さんの活躍が期待される。

(愛知県高校将棋連盟 奥野(南山高校女子部))